



ごあいさつ

北海道知事 高橋 はるみ

北海道ふるさと会連合会会報の発行に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍されながら、ふるさと北海道を思い、親睦を深められるとともに、北海道の発展のために様々なご支援を頂き、深く感謝申し上げます。

さて、北海道新幹線の平成二十七年年度までの開業に向けて一年半。いよいよ北海道にも新幹線時代の幕開けが近づいてきました。新幹線開業により、東京と新函館北斗駅が約四時間で結ばれることにより、本道と首都圏がさらに近くなり、ビジネスや観光、文化など様々な分野の交流が、より一層盛んになることを期待しています。そして、北海道新幹線で結ばれる沿線地域と一層の連携を図り、道内外へ積極的なPRを行うなど、さらに開業歓迎の気運を高め、北海道にゆかりのある皆様が大きな喜びに包まれながら開業の日を迎えられるよう全力で取り組んでまいります。

本年八月には、シンガポールを訪問し、航空路線誘致や外国人観光客の誘客や、道産食品の販売拡大などに向けたPRや意見交換を行うとともに、IR施設の視察を行う中で、北海道への関心の高さを改めて実感いたしました。また、この秋から、NHK連続テレビ小説で、北海道遺産のニッカウヰスキー余市蒸溜所を開設した竹鶴政孝さんとその妻リタさんを描く「マッサン」の放送が始まりましたので、こうした好機を活かし、本道の歴史や文化、豊かな自然環境、安全・安心な「食」など、魅力あふ

れる北海道の情報をこれまで以上に国内外に向けて発信してまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしく願います。道内では、エゾシカが急増し、農林業や自然環境に深刻な影響をもたらしています。道では、人とエゾシカとの適切な関係を築き、地域社会の健全な発展に役立てるため、本年四月に「北海道エゾシカ対策推進条例」を制定しました。この条例は、特定の野生動物を対象に総合的な対策を定める条例として全国初の条例であり、エゾシカと関わり深い北海道の地域事情から生まれたものです。本条例の制定を契機に、エゾシカとの共存・共生できる社会の実現を考えると、食や観光をはじめとする様々な分野でエゾシカを北海道の貴重な資源として有効活用してまいります。

北海道ふるさと会連合会様におかれては、各ふるさと会相互の交流と親睦をはじめ、様々な活動を通じて郷土北海道の発展に尽力いただいております。とりわけ毎年代々木公園で開催される「北海道産直フェア」は、今年、二十回の節目を迎えられ、これまで、ふるさとご自慢の特産品や、北海道の食の魅力や道外の多くの方々に伝えていただき、心から感謝申し上げます。今後ともふるさと北海道の魅力や価値を力強く応援していただき、各地域をご支援くださいますようお願い申し上げます。

おわりに、北海道ふるさと会連合会の益々のご発展と、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。私からのメッセージといたします。

第37回総会・懇親会の開催

総務部会 清水川 治二

平成26年度・第37回北海道ふるさと会連合会の総会・懇親会が、4月19日(土)、千代田区の「喜山倶楽部」で開催された。前日の肌寒い気候と打って変わって暖かな春の陽射しのもと、各ふるさと会、企業会員、来賓合わせて105名が参加、中には着物を召された女性も見られ、開場は終始和やかな雰囲気にも包まれていた。

総会に先立ち、森隆信会長は、「昨年、伊野達哉前会長よりバトンタッチされ、10名の新役員と旧役員が一丸となつて活動しこの1年間、初期の成果を上げることができ感謝する。又、昨年9月、連合会事務局が永田町に新築された建物へ移転し北海道事務所が同じ建物内にあるため、道庁からは連合会の活動をより理解され、評価が高まった」と述べられた。



堀口正顯副会長より総会定足数確認の後、総会議長に前年同様鈴木武昌氏(東京美深会相談役)が選出され、議事の審議に入った。平成25年度事業報告、収支計算書が各部会より報告のあと、池田俊一監事より監査報告があった。引き続き平成26年度事業計画(案)、収支予算(案)の発表があり、一括審議された。

その後、各ふるさと会新任会長の紹介、ふ

渡辺拓氏(東京札幌会顧問)より事務所の恒常的な赤字予算について質問があったが、池田監事から「他の部門で赤字をカバーして、宿命的なものである」との説明があり、ご理解いただいた。その他は議長の適切な采配でスムーズに全ての審議を終えた。

引き続き会場を移し、懇親会が開かれ、進行役は軽妙・ベテランの阿部正夫理事が担当し、ユーモア溢れるイントロで始まった。冒頭、森会長より「総会ではどんな質問が出るかと心配していたが、無事終えることができほっとしている。この1年よろしく願いたい」と挨拶された。次に、来賓の浦本元人北海道東京事務所長より、「JR北海道新幹線H5系デザイン紹介の後、「新事務所建物に東京小樽会をはじめいくつかのふるさと会が移転されて、会員の皆さんとより近く感じられるようになった」と述べられた。続いて、(株)北洋銀行藤池英樹執行役員東京支店長より「昨年は羽田一千歳便利利用客が5%増え、丘珠空港からの便も函館の他に八戸ほか各地への便が増えた」との報告があり、乾杯の発声へと移った。

宴会では、サッポロビール(株)手島孝雄専任部長、(株)北海道日本ハムファイターズ浅田弘司氏